

## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

### (1) みんなで進める まちづくり

#### ①子どもたちの声を聴く

その時々によって町の課題は変わりますが、どんな時でも変わらないのは、町民の声を聴き、意見交換を行い、みんなで共に取り組む“町民主体のまちづくり”です。奈井江町は、町民の健康や福祉、教育への取り組みなど、多くの話し合いを行ってきました。

平成13年には、子どもたちが豊かに成長し、幸福に暮らせるまちづくりを目指すため、児童生徒や大人が話し合いを重ねながら、「子どもの権利に関する条例」というまちのルールを考え、全国で2番目となる平成14年にスタートしました。

この条例を作り、町と大人は、子どもたちの「生きる権利」「育つ権利」「守られる権利」「参加する権利」を約束しました。



- ・「子どもの権利に関する条例」を読みましょう  
(町のホームページを検索しよう)

## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

町では、子どもたちの権利を守るため、また子どもたちが  
 社会参加をする機会を作り、自分の意見を伝える場として  
 毎年、「町長と語る会」「子ども会議」が、行われています。

まちには、奈井江町を良くする  
 ためのたくさんの計画があります  
 が、中でも 10 年間を期間とする  
 「奈井江町まちづくり計画」は、  
 最上位にある大切な計画で、町民  
 の健康や福祉、教育、産業活動へ  
 の支援など、いろいろな事業を行  
 う基礎になっています。この計画  
 を作るときも、子どもたちの意見  
 を聴きながら行っています。

奈井江町の子どもたちは、町に  
 対して いつでも 4 つの権利につ  
 いて、お願いすることができるの  
 です。



## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

### ②子ども投票

平成15年には、市町村合併（<sup>しちょうそんがっぺい</sup> 周りの市や町と1つのまちになること）をするか、しないかについて<sup>じゅうみんとうひょう</sup>住民投票が行われました。通常<sup>つうじょう</sup>の選挙<sup>せんきょ</sup>は大人だけで行いますが、町の大事<sup>だいじ</sup>な将来<sup>しょうらい</sup>を決める投票<sup>き</sup>なので、小学5年生以上の児童生徒にも「子ども投票<sup>とうひょう</sup>」を行ってもらい、全国<sup>こうくわ</sup>に報道されるニュースになりました。



- ・「子どもの投票」の結果を調べてみよう  
（[町のホームページ](#)を検索しよう）

## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

### (2) 町の発展につくした人

今ある病院や学校や道路、奈井江大橋などをつくり、地域の発展につくした人がいます。先人たちの努力により、奈井江町が発展してきたことを学んでいきましょう。

これまで、奈井江町のまちづくりや文化などで、大きく貢献された方々には、「名誉町民」の称号が贈られ、功績と栄誉が称えられています。



きた かつたろう  
北 勝太郎さん (1889~1963)

昭和10年に農家の人たちが健康に働けるように健康保険制度や病院をつくりました。初代村長として、また道議会議員や国会议員として働き、奈井江町で最初の名誉町民に選ばれました。



すぎもと しょうへい  
杉本 正平さん (1893~1987)

昭和30年から12年間という長い間、町長として奈井江町のために働きました。

奈井江高等学校や奈井江大橋の建設、北海道電力火力発電所も誘致しました。



## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの



よろず としお  
萬 敏夫さん (1909～2010)

昭和42年から16年間という長い間、町長として住みよい町にするため働き、道路を直したり、中学校や小学校も新しく建てなおし、町営住宅や公民館、体育館を新しく建てました。また、岡山県の高梁市（旧 成羽町）と友好都市になりました。



きた しゅうじ  
北 修二さん (1925～2007)

20年間、町議会議員を務めた後、昭和52年から18年間、参議院議員として国会で働きました。平成4年には、北海道・沖縄開発庁の長官（国務大臣）として働きました。



きた りょうじ  
北 良治さん (1936～2021)

昭和61年から32年間という本当に長い間、町長として町民主体のまちづくりに取り組み、「公文書公開条例」「まちづくり自治基本条例」「子どもの権利に関する条例」「おもいやりの障がい福祉条例」などを制定しました。福祉の先進国フィンランド共和国ハウスヤルビ町との交流などを通じて、高齢者や障がい者にもやさしいまちづくりを進め、奈井江町のまちづくりを学びたいと全国からたくさんの方が視察に訪れました。

## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

### (3) 交流と文化

#### ① 岡山県高梁市

昭和 55 年、北海道住電精密株式会社<sup>すみでんせいみつかぶ</sup>の開所式<sup>かいしょしき</sup>が行われた際に姉妹会社<sup>さい しまい</sup>の岡山住電精密株式会社<sup>すみでんせいみつ</sup>（現在の住友電工<sup>すみともでんこう</sup> 焼 結 合金株式会社<sup>しょうけつごうきんかぶ</sup>）がある岡山県成羽町<sup>なりわ</sup>（現在は市町村合併<sup>がっぺい</sup>して高梁市<sup>たかはし</sup>）の秋岡 博 町長<sup>あきおかひろし</sup>も来町し、奈井江町の広大な耕地<sup>こうち</sup>や雪に耐えての生活<sup>た</sup>に感動<sup>かんどう</sup>し、交流<sup>こうりゅう</sup>を深めたい 생각이<sup>つた</sup>伝えられました。その後、奈井江町の 萬 町長<sup>よろず</sup>などが成羽町<sup>なりわ</sup>を訪問し、山郷<sup>ほうもん</sup>で歴史ある文化<sup>やまさと</sup>や産業<sup>れきし</sup>などに触れ、昭和 57 年に友好都市<sup>ゆうこう とし</sup>の約束<sup>やくそく</sup>を交わしました。

昭和 59 年には、奈井江町<sup>かいちょう</sup>の開町 40 周年 記念式典<sup>しゅうねん きねん しきてん</sup>で成羽町<sup>なりわ</sup>の郷土芸能「備中 神楽<sup>きょうどげいのう</sup>」が披露<sup>びつちゅうかぐ</sup>され、この神楽<sup>ら</sup>を奈井江町<sup>ひろう</sup>の郷土芸能<sup>かぐら</sup>として育てていくため、昭和 62 年から 伝承<sup>でんしょう</sup> グループ<sup>なりわ</sup>を成羽町<sup>はけん</sup>に派遣<sup>し</sup>したり指導者<sup>し どうしゃ</sup>を招いたりして 伝承<sup>でんしょう</sup> が行われ、今も奈井江町での活動<sup>つづ</sup>が続いています。



【猿田彦の舞】



【素戔鳴の尊の大蛇退治】

## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

昭和 60 年からは、<sup>りょう</sup>両 <sup>ほうもん</sup>町児童生徒の訪問による <sup>こうりゅう</sup>交流 事業も行われ、<sup>なりわ</sup>成羽町の市町村合併後は一時、<sup>じぎょう</sup>事業が中 <sup>ちゅうだん</sup>断していましたが、令和 4 年から<sup>たかはし</sup>高梁市と奈井江町の小中高校が、オンラインによる<sup>たが</sup>互いのまちや文化、学校生活などを学びあう活動が行われています。令和 5 年度からは、奈井江商業高校の<sup>しゅうがくりょこう</sup>修学旅行で、<sup>たかはしじょうなん</sup>高梁城南高校を訪問する交流が行われています。

<sup>たかはし</sup>高梁市の<sup>ちけい</sup>地形や<sup>きこう</sup>気候、生活や文化など、奈井江町とのちがいを<sup>しら</sup>調べてみましょう。

| 奈井江町と <sup>たかはし</sup> 高梁市の<br>ちがうところ | 奈井江町 | <sup>たかはし</sup> 高梁市 |
|--------------------------------------|------|---------------------|
|                                      |      |                     |

## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

### ②ハウスヤルビ町（フィンランド共和国）

平成5年、奈井江町は、<sup>こうれいしゃ</sup>高齢者などにやさしいまちづくりを行うため、<sup>こうせい</sup>厚生省（現在の<sup>こうせいろうどうしょう</sup>厚生労働省）に<sup>そうだん</sup>相談し、<sup>せんしんてき</sup>先進的な取り組みを行っているフィンランド共和国のハウスヤルビ町の<sup>しさつ</sup>視察をすることにしました。翌年、「福祉に係る<sup>こくさい</sup>国際交流調査団<sup>ちようさだん</sup>」を<sup>けっせい</sup>結成して町の<sup>しよくいん</sup>職員を<sup>はけん</sup>派遣し、ハウスヤルビ町からもアンナ・カーリナ・ヤーコラ<sup>ぎちよう</sup>議長らが来町され、<sup>ゆうこうとし</sup>友好都市になる<sup>やくそく</sup>約束をしました。

平成7年にハウスヤルビ町の<sup>ぎじどう</sup>議事堂で友好都市の<sup>ちよういん</sup>調印を交わし、<sup>ほけん</sup>保健・<sup>いりよう</sup>医療・<sup>ふくし</sup>福祉を互いに学びあい、その後は、両町の様々な分野で交流を深めようと中高生も含めた多くの町民が、<sup>たが</sup>互いの町を<sup>ほうもん</sup>訪問しあいながら交流を深めてきました。



【友好都市の<sup>ちよういん</sup>調印式】



【奈井江商業高校で書道<sup>たいけん</sup>体験】



## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

両<sup>りょう</sup>町の中高校生は、町民宅<sup>たく</sup>でのホームステイにより互<sup>たが</sup>いの日常生活や学校生活を体験<sup>たいけん</sup>し、二国の違い<sup>ちが</sup>いを学んできました。

ハウスyalビ町の地形<sup>ちけい</sup>や気候<sup>きこう</sup>、生活や文化など、奈井江町とのちがい<sup>しら</sup>を調べてみましょう。

| 奈井江町と<br>ハウスyalビ町の<br>ちがうところ | 奈井江町 | ハウスyalビ町 |
|------------------------------|------|----------|
|                              |      |          |



## 12. 奈井江町で受けつがれてきたもの

### (4) <sup>うま</sup>旨い米づくりへの想い

北海道稲作の父と称される中山久<sup>きゅうぞう</sup>蔵さんが、1873年に寒さに強い「赤毛種<sup>しゅ</sup>」の栽培に成功し、北海道でも米づくりができるようになりました。しかし、寒い<sup>さむ</sup>地域<sup>ちいき</sup>で作る米はあまり美味しくなく“やっかいどう米”、といわれることもありました。今では、赤毛種<sup>しゅ</sup>の子孫<sup>しそん</sup>にあたる“ゆめぴりか”が、全国の人たちから美味しいお米との<sup>ひょうか</sup>評価を受けています。

### JA新すながわ ゆめぴりか<sup>せいさん きょうざikai</sup>生産協議会～ 大関光敏<sup>おおぜきみつとし</sup>さん

奈井江<sup>のうか</sup>の農家<sup>まじめ</sup>は、真面目なんです。おいしくない米をたくさん作って<sup>らく</sup>楽をするのではなく、消費者<sup>しょうひしゃ</sup>が喜んでくれる米を作ろうとしています。



低農薬<sup>ていのうやく</sup>や味<sup>あじ</sup>が良い低タンパク米<sup>てい</sup>に取り組んでも、その苦労<sup>くろう</sup>がお米の価格<sup>かかく</sup>に反映<sup>はんえい</sup>されず、むくわれない時代<sup>じだい</sup>が続きましたが、生産者<sup>せいさんしゃ</sup>の皆さん<sup>みな</sup>が努力<sup>どりよく</sup>を続けてきたから、これだけの成績<sup>せいせき</sup>を出せるのです。

- ・ 奈井江で作る「ゆめぴりか」がおいしいと言われるようになったのは、だれが、どんな工夫<sup>くふう</sup>や努力<sup>どりよく</sup>をしたのだろうか<sup>しら</sup>調べよう。

